

会議録

1 附属機関の名称

犬山市観光戦略会議専門部会（第9回）

2 開催日時

令和3年12月27日（月）午前10時から正午まで

3 開催場所

犬山市役所2階 205会議室

4 出席した者の氏名

- (1) 構成員 服部敦、梅川智也、片岸秀和、奥村好樹、片山義博
(順不同・敬称略)
- (2) 執行機関 永井経済環境部長、新原観光課長、小池観光課課長補佐、
小澤観光課主査補
- (3) 関係課 企画広報課、産業課、歴史まちづくり課
(別室にてモニター視聴)

5 議題

- (1) あいさつ
- (2) 報告事項
 - 1 観光戦略の策定スケジュール (資料1)
- (3) 議事
 - 1 犬山市観光戦略（案）について (資料2)
 - 1. 基本事項について
 - 2. 観光を取り巻く現状と課題について
 - 3. 観光の歴史的経緯と資源について
 - 4. 観光戦略の体系について
 - 5. 目標設定について
 - 6. 重点プロジェクトについて
 - 7. 方針別の施策について
 - 8. コロナ禍からの回復プログラムについて
 - 9. 今後の検討課題について
 - 10. 戦略の評価と見直しについて

6 傍聴人

3名

【配布資料】

資料1 令和3年度観光戦略 策定スケジュール

資料2 犬山市観光戦略（案）

参考① 第8回犬山市観光戦略会議専門部会 発言要旨

参考② 第4回犬山市観光戦略会議 発言要旨

7 内容
事務局

おはようございます。

本日はお忙しい中、またお足元の悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻より大分早い時間ではございますが、ただいまより第9回犬山市観光戦略会議専門部会を始めさせていただきます。

今回でこの専門部会は最後となります。今までありがとうございます。今日も含めてありがとうございます。年明けの親会議にて、最後の熱い議論をお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。

また、コロナの感染の関係ですが、オミクロン株の市中感染というニュースが報道されています。先日、名古屋でオミクロンの市中感染が出たというところで、感染者数は少ないといえども、いつこのオミクロンが爆発して広がるか広がらないか分からない状況で年末年始を迎えます。皆様におかれましても、自分でやれる感染対策をしっかりとやっていただきますようお願いしたいと思っています。

また、今回は梅川委員のご都合が合わなかったということで、現在オンラインで、画面に出ておりますが、参加ということになります。よろしくお願いします。

本日の会議についてですが、お手元の次第に沿って進め、長くても2時間、お昼の12時までには終了させていただきたいというふうに思っていますので、お願いします。

それでは、まず初めに服部部会長よりご挨拶いただきたいと思います。お願いします。

服部部会長

皆さん、おはようございます。

先ほどご案内にありましたとおり、今回が部会としては最終回ということでございますので、次の親会議に向けて、報告書の最終形に近いものが今日出ておりますので、それについてどう取りまとめていくかという方向で熱心なご議論を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

梅川先生はちょっと聞こえづらいところが多いと思いますが、聞こえづらかったら聞こえづらいとおっしゃっていただいて、止めていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

では、今日は最後の部会ということで、忌憚なく意見交換できればというふうに思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。では、よろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

なお、本日も事務局に観光戦略策定支援業務委託の受託者であります株式会社国際開発コンサルタントが参加させていただいておりますので、よろしくお願ひします。

本日は、総数5名全員の出席をいただいておりますので、会議は成立していることを報告させていただきます。

また、この会議については公開で開催されます。この会議の様子を市役所203会議室にてモニター公開しております。

傍聴の方におかれましては、会議中お静かにお願いするとともに、撮影は自席からの撮影、それから録音については、個人のメモとしての利用に限り認めます。切り取って公開するようなことだけはやめていただくというような扱いとなっています。お願ひします。

また、この会議の内容については、後日、資料と会議録をホームページで公開する予定となっておりますので、あらかじめご了承ください。

次に、会議録につきましては、2人の委員が署名することとなっております。前回、奥村委員、それから片山委員にご署名いただきましたので、今回は梅川委員、それから片岸委員にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

それでは、ここで事前に配付させていただいた資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

事務局

よろしいでしょうか。

(問題なし)

事務局

それでは、議題に入らせていただきます。

以降の進行については、会議規則に従い、服部部会長にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

服部部会長

それでは、議事進行させていただきます。

議事次第を見ていただきますと、今日は報告事項と議事ということになっていますが、報告事項のスケジュール、そして議事の観光戦略について、資料一括して事務局のほうから説明いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(事務局説明)

服部部会長

ありがとうございます。

資料の説明をいただきましたが、本日の部会も最終回ということですので、委員各位からご意見をいただきたいというふうに思います。

まずは各委員から一通り、順にご意見を伺っていきたいと思いますので、まず奥村委員から始まって、片岸委員、片山委員へ行きまして、その後、画面に映っておられる梅川先生にお話しただいて、私のほうからコメントするという一巡でお話をさせていただいた後、言い残したこと、言い忘れたこと、また皆さんのご意見を聞いて気が付かれたことを含めて、その後は手挙げ方式にしたいと思いますけれども、皆さんからもう一回りご意見をいただいでいくと。大体こんな進め方で今日進めていきたいと思いますので、よろしく願います。

今日は、本冊というか、最終的な戦略の形で資料が出てきております。次回の親会議に向けて戦略を取りまとめていくという段階に入っていきますので、資料の取りまとめという観点を中心にご意見をいただければというふうに思いますので、よろしく願います。

では、奥村委員からお話しただいてよろしいでしょうか。

奥村委員

まず前回の会議で質問させていただいた件で、連携的な表現をこの中に含めていただきましてありがとうございました。

あと一つが、消費額のところで説明を書いていたしまして、分かりやすいですけど、今回の資料ですと17ページですね。犬山市の消費額、それからあと他市の現状が書いてありますけど、3市ですね。以前お話ししました、どうしても比較になるかならんかというのは、高山はどうしても比較される方が多く、高山と名古屋ですね。名古屋は消費額がちょっと違いますけど、近隣であれば高山、名古屋。もしあれば入れてもらいたいと思います。その当時、平成24年当時だと約3倍ぐらい高い、これはコロナ禍前の数字ですね。

それから、次のところへ行きまして、54ページ、目標設定です。

宿泊業地元調達率、ここはまだはっきりと分かりません。宿泊していただくホテル、名鉄さんのほうでリッチなものが出ています。そのほかにも、今現在進めようとしているところもあります。民間で進めようとしているところがあります。今、一番コロナ禍で宿泊業の方、それから飲食サービスの方、かなり疲弊されています。大手もです。個人の方は頑張ってくださいですけど、中堅クラスの方はかなり厳しい状態です。

私ども事業再構築補助金というのが去年から、全国の日本商工会議所からか

なり力を入れるよという話をいただきまして、来年度の補正予算がついていまして、来年度は1事業者1億5,000万ほどの上限額と大きな額を今後入れようとしていきますので、それに向けて、今、大手、中小企業さんに近い、事業所からもエントリーをしたんですけど、事業再構築補助金に対して私どもは力を入れるというふうな新しい事業に対して取り組んでいただきたいと思います。これは5年計画のものです。単年度では済みませんので、そういったものには力を入れて、何とか商売に結びつけようと努力をしているところです。

そういったことから宿泊業地元調達率も、宿泊もこれからどんどん増えていくとは思いますが、なかなか今こういう状況ですので、難しい点ですが、こちらも役割を十分果たして、手助けをしていきたいというふうに今そういうふうに考えています。

あと、そのほかにつきましては、55ページの水景のところ、①遊園ルネサンス、②で日本ライン再発見ルートとあります。実際、木曽川の景観がここ何年前ですかね、木曽川の現在のところ、国交省が整備されて非常に景観が良くなっている。あの景観を何とか維持していきたいというのを個人でいつも思っていて、竹やぶですぐまた竹ばやしになってしまう、竹林ならあれですけど、そういった状況を何とか維持していきたいという点で、国のものということになりますとなかなか難しいと思うんですけども、それらの整備を何とか要望等を出していただきまして、国、県に対して要望して、何とか維持していきたいと思っております。それが②の再発見ルートにつながっていくかなということで、当然これからハードをやって、そういったインフラ整備の部分も何とかしていきたいと思えます。

その他としては、駅前通りですね。観光の目玉へ行く道路、歩道の整備、城下町へ行く道の歩道の整備こそ観光がさらに伸びるといふふうに思います。それらの中に重点を置いていただきたいと思えます。以上です。

服部部会長

ありがとうございます。

今のご指摘について、事務局のほうから何かございますでしょうか。

事務局

ありがとうございました。

観光消費額については、今おっしゃっていただいた高山ですとか、名古屋、ほかの都市についても一度また確認をしてみて、比較検討できるような、追いつけ追い越せではないですけど、そういったような数字を一度調査してみたいと思っております。

あと、目標指標については、先ほど悩みながら話してしまっているので、申し訳なかったですが、地元調達率というのが、やはり何らかの消費だとか、宿

泊客数だけでは捉え切れない、何らかの地元への潤いといったものが、観光のお客様が来ていただいたことで地元が潤うよというところをはかる何らかの数字ということができないかなというところで考えておりますので、よろしくお願いたします。

あと、日本ライン再発見ルートで、今お話いただけたのは国交省が竹林の伐採なんかも、ここ数年やっていただいて、非常に景観が良くなっているので、そういった市だけではなくて、県とか国とかを含めた、歩道整備だと当然県道になると愛知県さんになったりしますので、そういったところもしっかり連携して、ソフトだけではなくて、ハードについてもやっていくということで今ご意見いただいたかと思っておりますので、そういった部分も、また書きぶりについて検討させていただきたいと思っております。ありがとうございました。以上です。

服部部会長

要望事項も書けるなら書いてもいいですよ。

事務局

そうですね。

服部部会長

書けるなら書いてもいいと思います。

それから、比較対象はやっぱり常日頃比較されそうなところはちゃんとやっていきたいですね。この近辺でいくと、やっぱりお伊勢さんとか、幾つか比較対象になり得るところがあると思います。ちょっとその辺、どこまでできるか検討してもらえればいいですね。

駅前通りの歩道の話って、どこかに具体的に書いてありますか。

事務局

駅前通りの歩道の話は、今のところ記載がありません。かなり難しい。書いてないです。

服部部会長

とはいえ、いつも犬山の観光の話をする、いの一番に話題になる話ですよ。それは、どこかではっきりと書いていないとしても、どこかで書いてほしい。例えば重点プロジェクトの城下町の景観、観光整備プロジェクトのほうで考えていく課題だと言うならば、その辺のどこで対応するのかということは明らかにしておいたほうがいいんじゃないかなと思います。

事務局

承知しました。

服部部会長

では、続いて片岸委員お願いたします。

片岸委員

名古屋鉄道、片岸でございます。

今、資料のほうの説明をいただきましてありがとうございます。

聞こうとしたのは2点ですかね。

広域の視点を入れていただいたことが、具体的にいいことかなというふうに思っていて、というのは、我々としては犬山にお見えになる方にてできるだけ滞在時間を長くしていただきたい。宿泊型の観光エリア、まちを歩けば、我々からすると、日本有数のオーセンティックな観光都市というようなところを目指していこうというふうに思っているところがありまして、恐らく海外インバウンドの方は、まだちょっとホテルインディゴを開業しておりませんが、開業すると、恐らく長期滞在ということもあり得るでしょうし、ぜひそうであってほしいというふうに思っております。

そうすると、犬山市はもちろんのことなんですけれども、周辺への観光でのお出かけということもあろうかと思しますので、特に海外から見えの方は、川のこっちは犬山市で、向こうは各務原市ですとか、そこら辺は多分ご理解がない部分の話ですので、何よりここが一つハブになるような形で、長期滞在というふうな形で、広域連携ということはぜひ推進していただければというふうに思っているところでございます。

あと、私どもの話になってしまうんですけど、広域のところだと、もう一つは、市民とともにあるというところ、市民が潤うというところのお話もありまして、私たち名古屋鉄道としても、もちろん直接的に運営している施設はあるんですけども、言ってみれば、訪れてよし、住んでよしというような形になることが、私たちとしても今後の事業として取り組んでいくべきことであろうというふうに認識をしているところでございます。

通常は、観光で取り上げていらっしゃるのと本当に合致するところだというふうに理解しております。クリエイティブ層の移住のマッチングですとか、そういったところは、我々のほうも実施主体の中の民間事業者として積極的に関わっていく必要があるだろうというふうに思っているところでございます。

地元調達率に関しては、本当にどうカウントするかというのは大変難しいところだとは思いますが、やはりそれが高まることで犬山の観光自体がいわゆるサステナブルな状況になっていくことというのは、とても大事なことなんだろうと思っているところでございます。

そういったところを本当にいかに実施、推進していくかというところで、先ほど課題として捉えていらっしゃるというふうな話もあったかと思っておりますけれども、マネジメントを重視した観光推進体制の整備というところもぜひしつ

かり整備、整えていただきたいというふうに思うところでございますし、一民間事業者としても、我々も事業性、採算性、もちろん十分検討していきながら、積極的に犬山のまちの魅力のアップ・向上といったところはやっていきたいというふうに思っているところでございます。

私からは以上でございます。

服部部会長

ありがとうございます。

日本有数のオーセンティックな都市と言っていたら大変素晴らしいと思いますので、ぜひそういう方向に持って行っていただければと思います。

ほとんどがかなり認めていただいて、かなり応援していただいている積極的なご発言だったと思うので、事務局のほうからはありがとうございますというところかもしれませんが、何かコメントがあればお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

大きな目標を掲げて、そこに向かっていくというのは非常に大事なことだと思っていますので、ぜひ同じ方向で進んでいければと思います。

あと、三方よしという部分も、全く本当に名古屋鉄道さんがそうやって言っていただけというのには心強いですので、そういった方向性も忘れずに進めていきたいなと思っております。ありがとうございます。

服部部会長

では、引き続いて片山委員お願いいたします。

片山委員

よろしくをお願いします。

まず1個、僕が聞き逃したところかもしれませんが、54 ページのホスピタリティとありまして、市民、事業者、行政が連携した観光まちづくり事業数、これ現状が1事業で目標が3事業と、何を意味しているのでしょうか。

事務局

すみません、これは1事業と書いたのがちょっと誤りでして、今のところ特にこういったものはないです。なので、現状はゼロです。

具体的に3つの事業を想定しているものはありませんが、下のエリアマネジメントにもつながってくるんですが、何らか3者によって観光まちづくりに資する事業というのが、先ほど申し上げた栗栖ですとか、城下町、それから内田河畔で何らか展開できたらなというところがあり、ひとまず具体的な事業の想定はないんですが、3とさせていただいています。

ただ、それ以外にも犬山市域全体、最近市民の方によるいろんなイベントな

んかも、マルシェだとかも含めて立ち上がっておりますので、そういったものにも、市も一緒になってやっていければ、こういったものは非常に増えていくのかなと考えておりますが、ただ観光まちづくり事業というのが、定義がぼやっとしているのも、じゃあ、どこからどこまでを指定するのかというのが曖昧なものですから、今ここに計上したものの、さてどうしようかという部分がありますので、もしご議論とかご意見いただければ大変ありがたいです。

繰り返しになりますが、現時点ではゼロというところでございます。失礼いたしました。

片山委員

過日、10月29日の戦略会議のときに、もちろん今の日帰りを重視した観光も取り組みながら宿泊観光ヘシフトという形、僕も聞いたんですけど、先ほどから宿泊という話も出ておりますので、この観光戦略は宿泊を相当意識したビジョンということで、いいもんだなあと思っております。

もちろん新しいホテルが、7月15日にミューさんができて、3月にインディゴさんができる。従来のホテルも一緒になって盛り上がるためには、その2つが軸となって、犬山に宿泊していただいて、それで犬山を知っていただいて、また今、既存のホテルもさらなる誘客につながるということで、2つのホテルだけPRのみならず、全ての既存のホテルも、2つを中心にPRすることによって増えていくと信じていますので、まずこの2つのホテル、ミューとインディゴというのがありますので、それは重点的にPRしていくべきだろうと考えています。

あと日帰りですと、よく犬山駅の横、車で来られる方は別なんですけど、鉄道で周遊するという部分がありますので、周遊と滞遊というところも、やっぱり少しは入れておいたほうがいいんじゃないかなと思っています。

あと、さっきも歩道の整備とかいろいろありましたけど、なかなかインフラを整備するのは難しいことかと思いますが、先般名古屋鉄道グループの、若手の職員の方と少し意見交換する場があったんですけど、全く犬山を知らない方がおみえになられて、城下町もどこから城下町なのかなとか、歩道が整備されていないよねと、そういったご意見をいただきましたので、そこら辺はちょっと意識した部分で、そんなふうに入れ込んでいただければなと思います。

あと最後、前回の会議で服部先生がロケ誘致のことをお話しされたかと思うんですけど、そこら辺につきましては、49とか50ページのところに、ロケ誘致を通じた施策ということも入ってくる、細かく見えないですけど、入れられたほうがいいんじゃないかなと僕は思っています、コロナ禍でありますので、全くそういうロケの誘致もありませんけど、つい最近、明治村を撮影場所として大きなロケ隊とかもおみえになって、もちろん撮影されたのは犬山が放

映されますが、宿泊的な経済的効果も相当大きいというのが身をもって、今回数字でもってありましたので、ここら辺を強く。

あと愛知県ですと、豊橋あたりが相当行政が力を入れられて、国道1号線を封鎖するくらいの勢いでやられているということを聞いていますので、そこまではいかないまでも、城下町とかを含めた明治村さんが生きたロケ地というのもありますけど、こちらのほうも力を、今、日帰りの旅行版のロケ地とかはよく来ているんですけど、映画ということはやっておりませんので、そこら辺も意識できたらなと思っています。

基本的にも何回も重ねてきていますので、これについては担当者に委ねます。

服部部会長

ありがとうございます。

事務局のほうからお願いします。

事務局

ありがとうございました。

日帰りももちろん大事ですけど、そこから宿泊を重視していくというほうにシフトを変えていくというところで、そこのご評価をいただいてありがとうございます。

宿泊を延ばすということは、やはり宿泊施設がどんどん充実していくというところで、まず牽引役は2つのホテルであるというのも今ご指摘いただいたとおりでございます。ただ、その2つのホテルだけでいいかというわけではもちろんなくて、全く今ご指摘のとおり、そのほかの宿泊施設も併せて充実していくということで、全体の底上げができたかなと思っています。

あとインフラについては、先ほど奥村委員からもご指摘・ご助言いただきましたが、なかなか難しい部分ではありますが、歩道の整備、それは栗栖へ行く歩道もそうであったり、先ほど出た駅前の件もですが、やはりそのしっかり整備が実現すると、観光客の方にとっても、もともとと言うと、市民の方にとっても非常に便利であり、安全にという状況が実現しますので、お二人の委員の方からもご意見・ご助言いただきましたので、何らかこの戦略の中に書き込んでいければなと考えております。

あと、ロケサービスについては、P50の総括表の中のチャレンジ施策で具体的な書き込みがないので、そちら反映していければなと思っていますが、80ページのデータを活用したプロモーションの展開のところ、前回フィルムコミッションというのが非常に頑張っているんだという、犬山にとっても非常に重要なものなんだというのは、親会議のほうでも小川会長からご意見頂戴しました。

確かになるほど、ほかの市町ではなかなかないようなロケサービスチームがありますし、実績もございます。そして、明治村という日本の宝のような非常に貴重な建築物が集積している場所もあれば、お城、それから里山といったような非常に豊かな自然もありますので、こちらの活用というのはもっともっと頑張っていかなければいけないなというふうには感じておまして、ここに記載をしております宿泊とか、具体的な実利にも非常につながるなあということで、大規模ロケーションだと泊数も延びていくという消費の部分での効果もございますし、何より犬山というのが、ロケがされるぐらい非常に素晴らしいまちだということで、イメージの向上、あるいは聖地巡礼なんていうのにもつながるかなあというところで、多方面で効果があるなあと思っていますので、フィルムコミッションについては、もう一度中身も精査しながら強調していきたいなと考えております。ありがとうございました。

服部部会長

多分フィルムコミッションという体制でいうと7-7になるんですけど、ロケ誘致という観点で、地域資源自体がそれぞれに寄与するということになるので7-4とか、そっちのほうになってくるので、中身で書くのか体制で書くのか、両方に必要なのかもしれないですね。

事務局

分かりました。

服部部会長

お願いいたします。
それでは、梅川先生よろしいでしょうか。
梅川さん、よろしくお願いいたします。

梅川委員

ありがとうございました。本来だったら、今日はそちらにお邪魔していればよかったんですけども、これから出張が入ってまして、申し訳ございません、オンラインで。

かなり報告書らしくまとまってきてはいるなというふうに思いましたが、僕も再三申し上げているんですけども、やっぱり頭でっかちなんですよね、計画の部分ですね。ずっと犬山らしさの基本コンセプトで「犬山三景 水景・城景・緑景」、これは分かります。その後に、また3つの基本理念と出てくるんですよね。この基本理念がと次の観光まちづくりの将来像との関係性がうまくすとんと落ちてこないんですよね。これも整理の仕方だと思うんですけど、どうしようかなあ。

例えば、42 ページの目指すべき観光地の姿で3つの基本理念が出てくるんですが、ここに見所をきちんと入れる。これはどういう基本理念、何のための

基本理念なのかということを入れたほうが良いと思いますし、この基本理念が後半のほうにずっと引っ張っていくんですね。なので、これが多分一番重要な考え方だと思うのですが、次の観光将来像についてはここに書いてあるだけで、その後何も紐づけないんですね。なので、基本理念がやっぱり一番重要なところなんだろうなというふうに理解してはいますが、どうもその辺の整理がまだ少し分かりづらいというのが印象です。

それと 43、44 に SDGs の話を説明していただいて、分かりやすくなっているんですけど、この後、実は SDGs のどの目標に対して解決するのかという具体的なプロジェクトごとの説明が全くないんですね。前回は何かあったような、アイコンも入っていたような気がするんですけども、それがなくなってしまったので、SDGs の話を取り上げた意味が少し薄くなっちゃっているなという気がするんですね。多分、重点プロジェクトごとに 17 の目標を、これを実現するのがこの重点プロジェクトだという紐づけが多分あると思うんですけども、それを整理されるといいんじゃないかなという気がしました。

それから 45、46 ページで、このターゲットのところですが、犬山市民を独立させて上げてあるんですね。これが果たしていいのかなというか、多分犬山市民の中でも、若い世代だとか、ファミリーだとか、シニアだとかいらっやると思うので、軸がちょっと違うかなという印象がありました。

いずれにしても、地元の皆さんは支える方なので、言ってみれば、お客さんとして大切にしようということだと思うので、これはこれでいいんですけども、次の世代、圏域、目的という軸とちょっと合わないなという感じがしましたし、それから 46 ページの基本理念別に整理されているんですけど、これはなかなか理解しづらいかなあというのが印象としてありました。

あと、ちょっと個別になっていくんですが、将来像、将来構想図、これはいいと思うんですが、まず 52 ページの市全域のゾーニングは分かりますが、次の城下町エリアだけが、言ってみれば特出しされているんですね。ここが多分一番重点であり、重要なエリアという認識をしているんですが、構想図であれば、どこをどういうふうに整備していくかという将来の方向性みたいなやつを書いたほうが良いと思うんですね。

そうすると、例えば一番重要なのは遊園ゾーンだと思うけど、この遊園ゾーンをどうするのかというところ、後半のほうに重点プロジェクトの中に書いてはあるんですけども、遊歩道の整備だけなんですね。結局、本当にそれでいいのかという感じがしてまして、例えばインディゴも書いていないんですね。多分今回の一番大きな変化というのは、そういった国際的に通用するリゾート的なホテルがここにできるというのが大きな変化だと思うんですが、それがこっちに入ってこないというのはちょっと不思議な感じというか、あえてお

書きにならなかったのかなとかとも思うんですが、文章としては後半のほうに随分インディゴが書いてあるので、この図にもしっかり入れ込んだほうがいいんじゃないかなあという気がしました。

それから目標設定のところ、これはご苦労されたのがよく分かります。ここをもう少しきちっとしたほうがいいかなというふうに思います。特に先ほどご議論があったと思いますが、地元調達率とか、この辺は非常に重要なところなので、どういう視点、どういう調査のやり方でいくかということですよ。工夫のしがいがあるかなという気がします。

それから、55 ページの重点プロジェクトのマップがありますけれども、このマップの整理は、基本コンセプト、犬山三景に紐づいて出てくるんですね。ここだけはそれなんですけど、あとは全部3つの基本理念に紐づいていて、その辺の整理が少しできていないのかなというのがまだ印象としてありますね。

さっきの遊園ルネサンス、56 ページのところなんですけど、多分、次の57 ページにイメージ図を挿入と書いてあるので、ここでどこまで書き込むのかなということだと思んですが、結局、現状と課題は分かります。施策の展開の方針が書いてあるんですが、最終的には何々を目指し、遊歩道の整備を図りますというふうになっているだけで、もう少しにぎわいのあるエリアにしていくというようなニュアンスがほとんどないなという、ここはイメージ図と絡めてどう書き込むのか、そこが非常に、ポイントかなと思っています。なかなか表現としては難しいのかもしれませんが、ここはやっぱり夢のあるプロジェクトじゃないかなと思うんですね。ここはプロジェクトの中身の議論はあまり今回できませんでしたが、やっておくべきかなと思います。

それから、ちょっとここでいいのかなと思ったのは、64 ページのクロスオーバー資源開発なんですけど、チャレンジする重点施策、ここにDMO機能導入というのが入っているんですね。DMO機能導入というのは、大きいものは推進体制だとか、重点施策になるのかなというところ、共通理念の85 ページかな。7-9. マネジメントを重視した観光推進体制の整備の中でDMO機能の話じゃないかなと思って、クロスオーバー資源開発の中に出てくるのはちょっと違和感を感じました。

それから、もうちょっと再整理が必要だなと思ったのは、68 ページ目以降の方針別の施策が、これは3つの基本理念ごとに分けて書かれているんですが、理念ごとに整理するのがいいのかというのがちょっと分かりませんでした。ここにターゲット別の方向性というのがあるんですが、これは68 で出てくるのと70 で出てくるのと72 で出てくるのはあまり変わらないな。ターゲット別の方向性というのはどう理解していいのか、よく分からなかった。要りますかね、ここでね。

それから、チャレンジする重点施策なんですけれども、重点プロジェクトをクロス表にして丸をつけていらっしゃるんですが、このクロス表って要りますかね。これはあまり僕は意味ないなあと思って、むしろ7-1. 滞在・体験型観光の充実というテーマの中で、チャレンジする重点施策、まち並みや整備とか、いろいろ書いてありますけど、これを簡単に一つ説明してあげたほうが読むほうは分かりやすいんじゃないのかなと思います。クロス表はそんなに意味があるとは思えないですね。

それから、69 ページの下にもあります。最後に成果指標が出てくるんですけども、重点プロジェクトのほうには成果指標が出てこないんですよ。どうしてこの方針別の施策だけに成果指標を入れられたのか、ちょっと分からないんですが、重点プロジェクトのほうに成果指標が入ったほうがいいのかという感じがして、これがちょっと整理の仕方としてよく分からなかったというところなんです。今日が最後だというので全て申し上げますけども。

あと、コロナ禍からの回復プログラム、これ、回復プログラムって何年ぐらいをイメージされているのか。第1期、第2期、第3期、第4期ってありますけども、何年なんだろうね。10年ということはないと思うんですけども、インバウンドが回復するのはいつを想定するのかですね。これを見ると第4期なんですね。大体2024、2025年ぐらいから元に戻るんじゃないかなと言われてますけれども、その辺の話と整合が取れているのかどうかというようなことがちょっと気になりますよね。

それから、最後にちょっと細かいですけど、84 ページの下に推進体制の構築というのがあって、財源の話があるんですけども、安定財源を超過課税により確保していると。これは全く意味が分からなくて。恐らく入湯税の超過課税だと思うんですが、安定財源を超過課税により確保するというのは、ちょっとおかしな表現かなと思いました。

それから、86 ページの今後の検討課題ですけども、検討課題として残すんじゃないかと、これは重点施策に入れたほうが良いと思うんですよ。恐らく、今5つありますけれども、重点施策に入れようと思えば入れられるかなと思っていて、せっかく作ったのに、まだまだ検討課題があるよというような印象を持たれるよりも、ちゃんと入れておいたほうが良いかなというふうに思いました。

それと、あと87 ページの戦略の評価と見直しのところなんですけども、計画の進捗管理をしていく戦略会議ってありますけれども、これ戦略会議というと、今、戦略を策定する役割を担っている会議のような印象を持ちますので、戦略を推進する会議というような名称にされたほうが良いんじゃないかなという気がします。

それともう一個、推進体制の話で、前半にも市民とともにという表現があるんですけども、市民の皆さんだとか、まちづくり団体の皆さんとか、そういった地元の皆さんが頑張るといような形をやっぱり表現したほうがいいと思うんですね。推進体制の中に入れるのかどうか、その他の中に入るのかどうか分かりませんが、何か市民とともにやるんだという、その辺の表現を分かるような形にしたほうがいいかなという感じがしました。

それから、最後 88 ページですけども、これは他の計画との関係性が書いてありますけども、これは総合計画と都市マスしか書いてありませんけれども、もう少し配慮しなければいけない計画というのはないんですかね。何か文化財系の計画だとか、自然公園系の計画だとか、何かあるのかなのか、ちょっと気になりました。

すみません、以上でございます。

服部部会長

ありがとうございます。

大変たくさん指摘をいただきまして、また事務局として、ありがとうございますということだと思えますが、ちょっと私のほうから2つほど、梅川先生と意見交換したいと思いますが、1つは頭でかちのところですよ。

基本理念とまちづくり将来像で、まちづくり将来像の位置づけがちょっと分かりにくいというご指摘だったと思うんですが、私の理解は、これはよく総合計画なんかでもやる手法なんですけど、基本理念を幾つか並べておいて、それを一つのキャッチフレーズに落とし込むというのを将来像というふうに呼んで書くというやり方をやっていて、基本的には基本理念と将来像、同じことを意味していると私は理解しているんですね。

3つ、コンフォタビリティ、オリジナリティ、ホスピタリティというのがあって、それを一つのフレーズに落とし込んだのが将来像で、「犬山らしさ」がオリジナリティかな。「ずっといたくなる」というところがコンフォタビリティで、「みんなでつくる・みんなのための観光」というのが最後のホスピタリティということで、基本理念で書かれていることを一つのフレーズに落とし込んで言いやすくしたということなので、この後、再掲がないというのはそういう意味で、再掲がなくて、基本理念のほうを分割しやすいので使っているという理解で私はいるんですけども、そういう理解で整理するというのはいかがでしょうか。

梅川委員

今のご説明が一番分かりやすいですね。そういうふうな整理をすると分かりやすくなります。分かりやすいです。

服部部会長

あと、水景・城景って出てくるのは 55 ページかな。
55 ページで、3つの景が紐づけがあるというのがちょっと分かりにくいという話だったんですけど、ここは空間的な配置とか、空間的な施策の割り振りなので、景との関係を整理してみたくなったんだと思うんですね。施策のほうは、基本的には基本理念にぶら下げて整理をすると。空間的な配置みたいなどころが出てくると、こういう景にぶら下げて整理をするというのは、比較的素直な感覚かなあというふうに私は見ていたんですけど、その辺いかがでしょうか。

梅川委員

そうですね、私が基本コンセプトの犬山らしさというのが犬山三景だと思っていなかったの、空間だけで整理するのがいいのかなというのはちょっとありますが、そういう意味では重点プロジェクトというのはハードの話だけではなくて、いろいろソフトの話なんかも入ってくるので、この整理がちょっと違和感を感じる。

服部部会長

多分、重点プロジェクトの中身の整理をするときは、基本理念との関係との整理しなきゃいけない、55 ページのように、空間的なプロットをしたときにどこの景と関係しているのかということも整理したい。多分両方整理したいと思うんですけど、多分、片一方の整理しかないからおかしいという感じですかね。

梅川委員

まあそうですね。

服部部会長

それぞれ政策的な意味づけがあるので、基本理念の関係が整理されていないのが逆におかしいんじゃないかなということですよ。はい、分かりました。
あと 1 点、これは 86 ページなんですけど、この検討の中に入れてもらったのは私の意見なんですけど、戦略で全て書いたほうがいいのかというのはちょっと難しいんじゃないかなあと正直思っています、やるというふうには書き切れるものばかりじゃない。戦略をせっかくつくるので、できるだけやれることはやると書きたいんだけど、今の段階でやると全部書けない。じゃあ、それは書かないのかというと、そこはおかしいことになってしまって、忘れ去られてしまうということは逆に避けたいということで、書かないよりは課題として整理をして、その後、評価・見直しをする中で、戦略とか計画というのはどんな計画でも必ず固まるものではなくて、常に変化していくものだと私は思いますので、評価・見直しをする中で課題について検討し、固まったら追加していくという形が望ましいのではないかなというのが、これは私の意見なんですけれど

も、先生、どう思われますでしょうか。

梅川委員

いや、私は、チャレンジする重点施策の中はかなり難しいプロジェクトが結構入っているので、ここであえて1から5までを今後の検討課題の形に外出しするというのが、ちょっと違和感を感じたんですね。そういう意味では、恐らく最初の1も2も、多分緑の話なんかもチャレンジする重点施策の中に入れ込めるんじゃないかなというふうに、今の服部先生のご説明は分かりますけれども、そこに掲げた1から5については、チャレンジする重点施策の中に入れ込めるんじゃないかなという印象を受けたんですね。

服部部会長

多分この辺は、最後あとは市のほうでどう受け止めるかという話だと思いますので、検討課題というのが計画の中に入ってくるというのが私はいいのではないかと。そういうのを入れないと、書けないことを書かなくて、消却するというスタンスを取る自治体も多いので、そうならないという意味では、こういうのを載せておくというのはいいことだと思います。あとは、現段階で例えば交通とか、書き切れるのか、書き切れないのであれば、何でかというところをちょっと整理していただいて、また梅川先生にもご説明いただけるということが必要かなというふうに思いました。

では、ちょっと私のほうで先に議論してしまいましたけれども、事務局のほうで梅川先生のお話でコメントしておきたいことがありましたらお願いします。

事務局

梅川先生、ありがとうございました。

たくさんご助言いただきましたので、基本理念と将来像とのつながりについては、先生に補足していただきましてありがとうございました。

SDGsについては、確かに少し前の資料ではアイコンを置いて、その施策だとか、重点プロジェクトとの関係性を表現しようとしていましたが、このSDGs自体、このくんだりがなかなかまだ十分紐づけたとか、関係性の説明ができていないというのが現状で、ご指摘のとおりです。まず基本理念と将来像に対しての紐づけを今試みて書き込んでいるんですが、その次の段階の、じゃあそれを実現するための重点プロジェクトと169のターゲットのどこと関係してくるか、どう高めていくことができるか。SDGsへの貢献ということだと思いますが、そこはまさにご指摘のとおりですので、再度このつながりというものがちゃんとできるように作業を進めます。ありがとうございます。

それから、ターゲットの中で犬山市民を入れたというのは、前回の親会議でもご指摘がありました。専門部会で市民というのは大事だよというのがありま

して、確かに市民は担い手でもありながら、消費者あるいは楽しんでいただく対象でもあるので、犬山市民をターゲットにするというのは正しいことだなど思っておりますが、確かに表現の仕方が唐突感もあるので、ちょっとこの中でどういうふうにターゲットの表に落とし込んでいけるのかなというのは少し検討していきたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

それから、将来構想図については少しずつカスタマイズされておまして、ブラッシュアップが進んでいて、毎回ちょっとずつ違うんですけど、そろそろ完成させなければいけないということで、今ご指摘いただいたことを検討の中に加えて、ちょっと進めていきたいと思えます。

インディゴを表の中に入れるかどうかというところは、またミュースタイルをどうしようとか、ちょっといろいろどうしてもバランスを考えてしまうところもあるので、一回考えますが、ただ遊園ゾーンの中では間違いなく非常に大切な存在なので、少し城下町エリアの図のブラッシュアップ自体はもう少し進めていこうと思えます。ありがとうございます。

ちょっと長くなっていますが、それから、あと遊園ゾーンに戻りますが、今、重点プロジェクトも含めて遊歩道の整備というのが、特に特出しで強調して書いています。これは、逆に言うと行政としてはこの計画に書き込んで、是が非でもやりたいと思っております。桜の木の問題もありますし、歩道自体の劣化もあります。やはり何とかしてあの空間をよみがえらせたいというのがありますので、特にやるんだという決意表明な感じで書いてあるというところがございます。

ハードだけやったら終わりかという、それはただの空間整備で終わってしまいますので、前、ちょっとどこのタイミングの会議だったか忘れてしまったんですけど、やはりハードの整備が大事なんだけど、それを充実させていくのはソフト事業であって、歩道の中の何か商売的なにぎわいをもたらせるような空間づくりとともに、沿道ですね。つまり民間の方がお持ちの土地あるいは宿泊施設なんかも充実させていく両輪でないと、恐らくあの空間というのは、市民にとっても観光客の皆さんにとっても、魅力的なものにはなり得ないというのは十分承知しています。ただ、ちょっと書きぶりとして、歩道整備をやるんだということが意志が強くなっているんで、強弱の強がつき過ぎているところはあります。重点プロジェクト自体は、宿泊・飲食・物販の誘致というのは書かせていただいておりますが、少し強弱が弱いかなというところがありますので、民間の活力の活用も含めて、書きぶりを少しやっていきたいなと思っています。

梅川委員

ここは行政だけの話じゃなくて、やっぱり民間の力も借りながら、遊歩道を

中心に、例えば犬山市民の人たちが夜在宅されていて、散歩できるとか、デートコースになるとか、ここは将来的にはにぎわいのある空間になっていく、それが要は木曾川の観光のプラスになっていくんだという夢のある話にしていけないと、遊歩道整備で終わってしまうのでは何か寂しいですね。せっかくのいい空間がね。今、夜なんて真っ暗じゃないですか。ちょっとあれは勿体無さ過ぎるという印象を持ちました。

事務局

ありがとうございます。

まさにご指摘のとおりですので、そういった部分の書きぶりの強化とか、あと具体的に進めていく方針みたいなものも書けたらなと思っています。

ただ、ちょっとすみません。書いていくに当たっては、夢をまず語っていくというのはこの冊子の中で実現していきたいですが、一方で内田地区に住んでいらっしゃる方との対話だとか、意見の交換だとか、こういったまちにしていきたいという部分を、まず行政側で夢は持ち、お示しするんですけど、その夢が住民の方とイコールになっていくかという部分の作業とか、対話という場は必要になってくるなと思っています。じゃあ、そのすり合わせが終わるまで書けないかとなると、計画がどんどん後送りになりますし、何も書けなくなるので、ある程度の夢というはお示ししながら、その上で住民の方との対話というのも進めていくというところも必要かなと思っていますので、そこも反映させながら取りまとめていきたいと思っています。

梅川委員

今の小池さんの話したようなことが、本当はこれからの今後の検討課題になるんじゃないですかね。内田地区との、このプロジェクトのことだけじゃないですけど、やっぱり住民ときちんと対話を重ねて練り上げていかなければいけないというのは、なかなかプロジェクトには入れられないので、検討課題に入れていくというのはあるかなと思いました。

事務局

はい、ご助言ありがとうございます。

あとKPIについては、まだまだ工夫のしがいがある部分もありますので、頑張っまいます。

それから、DMO機能については、クロスオーバー資源開発の中で書かせていただいているのは、クロスオーバー資源開発というのは、様々な主体の方がそれぞれの場所で観光に関わっていただいて、あるときはボランティアだったり、あるときはビジネス的な観光コンテンツ造成だったり、様々な人が活躍していくという総論みたいなことが書いてあります。

そういったものを取りまとめていたり、いろんなものを打ち出していくの

に仲間を集めていったりというところが、全体のマネジメントという部分でDMO機能の導入というのがここに入れるのかなというふうに考えておりました。重点プロジェクトのどこかにこの言葉というのをぜひとも入れたいなと思っていたので、7-1から7プロジェクトの中でいくと、クロスオーバーかなということで今入れております。

ただ、一方で施策の方向性、基本方針のほうにももう少し両面に入れておくといいのかなということも今ご指摘いただいて思いましたので、基本方針のほうにも、その辺りというのは記載を強化していければいいなあと考えております。

あと、ページでいいますと、68 ページ以降の方針別の施策になります。表として必要か不要かというようなご指摘をいただきましたので、例えばチャレンジする重点施策と重点プロジェクトの星取り表ですとか、ターゲット別の方向性等々ですが、今この方針別の施策の表というのが、どちらかという、今まで出てきた施策の体系整理ですとか、課題だとか、方向性だとか、ターゲットをもう一度基本理念ごとに再構成したような部分になっておりますので、同じことが2回出てきたりしているんですけど、やはりこのページについては、基本理念、そして基本的施策、施策の方向性ごとにもう一度再構成してまとめていくと。

どっちかという、これは市民の方が見ていただきたいんですけど、観光関係者の方がもう一回ここで突合していくような場所になるといいなというところもありますので、何となくくどいようなところもありますが、強調して残していきたいなというふうに考えております。ただ、ちょっとまだ確かに取り組み内容とか、足りないところがあるかなと思いますので、一度また再検討してまいりたいと思っております。

あと成果指標については、方針別施策のほうで、アウトプットでのKPIを基本として、本当はもっとたくさんKPIがあるんだろうなと思いつつ、こちらに掲載したというところではございますが、重点プロジェクトのほうには、成果指標を入れるかどうかというところはちょっと悩みどころでして、まずアウトカムでの成果指標を大目標として5番で表現して、なるべく絞りに絞って5項目、6項目ぐらいつくったと。その後、あまりにも成果指標が各項目に出過ぎると、ちょっと成果指標だらけになって、この成果指標を追いかけるのが厳しいかなというところも正直ございます。もちろん庁内内部では、成果指標をもっとたくさん持って定点観測していくんですが、オフィシャルなところでの成果指標の出し方という部分では、この感じかなというふうに考えておりますので、またご助言いただければと思っております。

それから、回復プログラムにつきましては、非常に難しいなと思っております。

11 月過ぎたら非常にコロナの状況も落ち着きまして、我々も久しぶりに飲みに行ったり、日常を少し感じつつあるような状況もあります。ですが、またオミクロンという新たな驚異も迫ってきているかもしれないというところで、具体的な年次というのは正直表現できません。確かに見込みとしては 2024、2025 年ぐらいでというところもあるかなとは思いますが、ちょっとフェーズとして、この回復プログラムのスパンとか、期間というのを表現するのはちょっと難しいのかなというふうには思っております。

ただ、段階的な取組みとか、ターゲット的なものというのは、やはり最初は S I T だとか、レスポンシブル・ツーリストですとか、現在、日帰り観光客から始まって、徐々にエリアを拡大していくというような捉え方をしておりますので、こういったような書きっぷりになるのかなとは思っておりますが、またちょっと中身については再精査してまいります。

それから最後、あとは 87 ページの P D C A になりますが、こちらについては市民とともにという表現、かなりの部分で市民とともにつくっていくんだと、もちろん将来像にも掲げておりますので、市民参画という部分をこの表の中でももうちょっと分かるように、そして進行管理の部分でちょっと書きっぷりが弱いとか、ほとんど出てこないものですから、市民と共に育んでいくんだという表現を 87 ページのほうでも反映させていきたいと考えております。

88 ページの他計画については、また確認をさせていただきます。

以上になります。よろしくお願いいたします。

梅川委員

ありがとうございました。

服部部会長

ありがとうございます。

じゃあ、最後、私のほうから幾つか簡単に、簡単でもないですけども、申し上げておきますと、資料全体を眺めていて、ごく基本的なことなんです、ですます調とである調が混在していますので、そろそろ揃えていただいたほうがいいかなというふうに思います。

それから、頭から行きまして、三景の図がありますが、41 ページですね。最近私を書いたままになっているので、そろそろこれはお化粧したほうがいいですよ。ちょっとラインがずれていたり、重なりがあったりなかったり、幅がおかしかったりいろいろあるので、ちゃんとやってくださいね。

事務局

了解しました。

梅川先生もご指摘されたSDGs、43、44 なのですが、もうちょっとSDGsを読み込んで整理をしないといけないだろうというふうに思います。もちろんまちづくり系だとどうしても11に着目してしまうんですけど、実は観光系だと8かな。8-9だったと思いますけど、持続可能な観光というターゲットが出てくるんですよね。あそこ、すごく重要な項目があって、観光を狙っているからには、むしろそっちのほうがすごく重要なんですよね。だから、それもちょうと意識しながらやっていくということと、やっぱり三景を考えているときに、目標6の水を出していくということとか、あと目標15の陸上資源、この辺は緑ですね。この辺を重視しているということで、やっぱり三景との関係の中でどうなのか。

それから、市民参加という意味では当然17がすごく大事になってくるので、やっぱりSDGsをもう少し理解を高めて深めて、今回のやろうとしている理念とどこが合致しているのかという大きなストーリーを書きつつ、一方でそれぞれの施策が何にぶら下がっているのかという対応を取るということをもうちょうとやらないと、SDGsを書いている意味がないだろうというふうに思います。

それから46ページ、これも先ほどのご指摘のとおりで、犬山市民が多く外出しされているというのが何か違和感がありますよね。どうやってうまく整理できるのかよく分かりませんが、基本理念とのひもづけも無くなってしまっているということもやっぱり変なので、基本理念ごとに犬山市民を書くのか、年代、圏域、目的のどれにも入らないという感じもするので、その辺の整理の仕方を改めて考えてくださいということです。

それから将来像、54ページ、53ページに参りまして、梅川先生と全く同じ印象を53ページのほうに持っていて、メインストリート、サブストリートとか、遊園ゾーンとか、丸の内ゾーンとかって、単なるエリアの説明になっているんですよね。左側のほうは、もう少し意味づけがあるんですけど、例えばにぎわい創出ゾーンとか、何がしたいのかということゾーン設定しているなら書くべきだし、メインストリートとは何かよく分からないですよね。ここで何だと。メインの回遊性を増したいのかと。じゃあ、サブストリートって何だという意味づけをもう少し書いたほうがいいですよね。メインとサブを分けるんだったら、一体何だと。そこが、特に右側の城下町エリアのほうで薄くなっているかなあという感じがします。

54ページに参りまして、一番下のホスピタリティで苦労されているのが分かりますが、多分観光まちづくりの事業の数とエリアマネジメント、ここも一緒なんだろうなと思うので、多分どっちかになるんでしょうね。一方で、市民参加でやられた観光メニューとか、本当はそれをカウンティングできればいい

んですけど、あるいはこれを全てカウントしてフォローしていくというのは、何らかの登録制度とかなんか難しいですよ。そうすると、そういうのを分担したり、やっている人を捕捉して、取組みも把握していくという意味では、何らかの登録制度を設けていくのか、もしくは補助金とか、そういうお金を出す先というところで、補助金に紐づいてやられた事業をカウントするとか、何らかの型のはめ方を考えないと、カウントできなくなるだろうと思うんですよ。

よくやるのは、登録認証制度系でやるのか、補助金への紐づけ制でやるのか、どちらかだと思うんですけど、多分そこで指標を考えていかないと、最後、サンプルできなくなるだろうという感じがするので、それをぜひお願いしたいなあというふうに思います。

重点プロジェクトとその後の施策別の関係ですけれども、6-8で新たに市民の話が出てきて、今度は7-2のほうで広域連携の話が出てきて、大きな課題についてしっかり整理しようというのはとてもいい方向だと思います。

一方で、6-8の市民、この市民って何だったと。先ほども言われたように、市民は観光ターゲットとしての市民なのか、担い手としての市民なのか両方あるはずですよ。そのときに、担い手のほうを書こうとしているのか、ターゲットのほうを書こうとしているのかというのをまず意識しないといけない。そもそもこの重点プロジェクトというには全然具体性がないので、重点プロジェクトで合うのかなあと。むしろ、後ろのほうの7の施策別の体制整備のほうで書いたほうがいいんじゃないかという感じもします。

いずれにしても、もう少しブレイクダウンして、市民参加という意味では、市民がもっと地域の市民に対して意識するという教育とか、市民に対する情報発信から始まって、それからいわゆる観光フォーラムするみたいな話もあるし、市民が参加しているいろいろ作っていくということもあるし、それから、一方で市民が観光するというユーザーとしての視点もあるだろうし、そういうものを総合的にというんだったら、もう少し場面を分割して整理しないといけないというふうに思います。

それから、7-2のほうの広域連携についても、もう少しブレイクダウンしないといけないでしょうね。これもいわゆるPRセミナーというのか、プロモーションみたいなところで、どこまで広域的にプロモーションやPRができるのかということもあるだろうし、そもそも観光メニューを地域限定ではなくて、もう少し広域的に連携した観光メニューをつくっていくんだということもあるだろうし、一方で広域的なゾーンとする犬山に集めて、犬山で発信していくんだということもあるだろうし、全部施策として違いますよね。それをもう少し織り込んでやらないといけない。それを織り込んでくると、もしかしたら広域

連携のほうが重点プロジェクトになるのかなあという気もしました。

あと7-7以降、7、8、9のところ、それまでの7-6までの表装と全然違う表装になっていて、果たしてこれでいいのかというのがあるので、もう一回、7の部分の全体の表装を揃えるのか、揃えないんでしたら、それはなぜなのかということのを再整理しておく必要があるのかなというふうに思います。大体以上です。

あとは事務局のほう、お願いします。

事務局

ありがとうございます。

でも、今全ておっしゃるとおりなので。

服部部会長

ご検討いただければ。

事務局

はい。また整理してまいります。ありがとうございます。

服部部会長

ということで、時間がかかなり長くなってしまいましたが、一通りお話をいただきまして、全体を振り返っていただいた上で、ちょっと言い残したところ、気がついたところ、ほかの委員のご意見で思いついたところ、ございましたら、改めて残り20分ぐらいですけれども、ありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

奥村委員、お願いします。

奥村委員

52 ページですけど、ゾーニングのところ、新池・中島池の環境学習ゾーンのところ、色と名前がまず合っていないので、このエリアは、自然のほうはSDGsのメインでやってみえるので、自然体験か何か、色がちょっと環境と色が違うので、環境でしたらオレンジにしてください。

服部部会長

凡例と対応していないですね。

事務局

ありがとうございます。

服部部会長

見え方がね、多分緑と重なって変になっているんですね。

事務局

確かに凡例と色が違うように見えるので修正いたします。ありがとうございます。

服部部会長

そのほか、いかがでしょうか。
よろしいですか。
梅川先生、よろしいですか。

梅川委員

たしか初年度だったと思うんですが、調査をやられましたよね。かなり大々的なアンケートをやられたと思うんですが、その結果を全部まとめるのは別冊か何かにあるんでしょうけれども、何かこの提案を支えるこういうデータがあるから、こういうプロジェクトが出てきたんだと。あるいは、このプロジェクトはエビデンスに基づいているんだというところで使うとか、あのアンケートの結果を少し散りばめる、適切に使うということをされたらどうですかね。あれ、せっかくやった調査なのに、今回のレポートの中に一文字も出てこないってもったいないなあという印象があるんですけども、いかがでしょう。

服部部会長

使っているのは、今 15、16 辺りに使っています。15、16、17 ぐらいがそのときの資料ですよ。

事務局

ありがとうございます。

今回、初掲出で現状と課題の整理、4 ページから始まるところで、国・県・市ということでデータを出しております。ただ、冒頭申し上げたとおり、まだ R2 年度のデータなんかが入ってなかったりするので、作業中ではございますが、一応データに基づくとここで、この辺りを踏まえて 19 ページの課題の整理をして、その課題を解決、改善していくために基本理念、重点プロジェクトというような流れを考えておりますので、一応データの掲出とか、エビデンス的な部分というものの役割は、特に犬山市ですと 11 ページ以降のところ表現したいなと思っております。

一応、今、服部先生におっしゃっていただいたとおり、16 ページ、立ち寄りが少ないが複数立ち寄りを目指すですとか、消費の実態が少し上がっているがまだまだ足りないということで消費を高めるですとか、18 ページは、犬山は魅力がまだまだ向上する余地があるよということで、名物は思い浮かぶものがないが半数以上ということで、そういったようなところがデータとしては使わせていただいているということになります。

ただ、もう少し今やろうとしている重点プロジェクトも含めた施策と、データのなぜやるんだの部分になると思うんですけど、データについてはもう一回、今ちょうど作業しておりますので、計上していきたいと思っております。全体的には、資料編のほうにどかっとなるのかなというふうには考えております。ご指摘ありがとうございます。

服部部会長

ほかにいかがでしょうか。

犬山の観光のデータ情報というのは、どこかに一括して定期的に出たりする
んでしたっけ。

事務局

今のところ特になくて、犬山市の統計という市全体の統計情報が、人口から
全て福祉も含めての中にちょこっと載っていますが、これまで犬山市の観光と
いうデータベースはありません。これから、これで戦略ができますので、当然
今回調査したデータというのは市のホームページがベースになると思います
ますが、そちらに掲出しつつ、これから毎年数字を追いかけていくことになりま
すので、そういったような情報というのは、ホームページになると思いますが、
集約して、そこにストックして、皆さんに見ていただけるようにしていきたい
なと思っています。

大事なのは、毎年レビューではないですけど、観光によって、こういういい
ことがありました、この数字がまだまだ足りませんというのとはちゃんと把握し
て、作業ばっかりになっちゃいかんですけど、適切に把握して、適切に公表す
るといことは大事ななと思っておりますので、そこは定点観測していきたい
なと思っております。

服部部会長

あまり手間になってもあれなんですけど、データのオープン化というか、デ
ータの公表はすごく大事で、関心を持ってもらうということも含めて大事にな
ると思います。犬山の観光の状況がどうなっているのかというのが、単にアニ
ュアルレポートだけじゃなくて、月単位とか、週単位とか、日単位とか、どう
いう形でデータを出すといいのかというのはあるんでしょうけど、例えば今日
の犬山市みたいな感じで、今日の犬山にどれだけの人が来ているのかとか、お
城のパーキングの台数とか、ある程度やろうと思えばできなくはないのもある
と思うんですよね。そういうのが日変動していて、ああ、犬山って最近たくさ
ん来ているよねとか、モンキーパーク、たくさん来ているんだとか、犬山城
って結構人気ねとか、そういう情報というのがもう少し小まめに出てもいいん
だろうなという感じがします。

そういう情報がオープン化されているということが、逆にそういうのを使っ
て、民間事業者がいろんな創意工夫をしたりすることにつながっていくんです
よね。情報がオープンにされていないと、民間事業者の工夫というのが促進さ
れないということがあるので、怖い面ももちろんあるんですけど、行政はどち
らかというと情報のオープンに怖がりですけど、あまり怖がらずにそれを出す
ということが、民間を含めた活性化につながるというふうになるので、できる

だけ小まめに情報がオープンされているという状況をつくっていくというのが、データに基づく観光というのにかなりつながっていくと思うので、その辺をもっと強調していただきつつ、ただ書くだけじゃなく、本当にやってほしいなというふうに思います。

私からのほうからは以上でございます。

他にいかがですか。よろしいですか。

時間若干ないですけれども、事務局のほうにお返ししたいと思います。

事務局

ありがとうございました。

冒頭にも言いましたが、これは最後の専門部会で、今の皆様のご指摘等々、これから組み込んで、年明けの親会議に向けて修正等々やっていきたいと思えます。

さらに、計画がこれで戦略ができることになりましたが、先ほど梅川先生からのお話の中にもありましたが、戦略を推進する、引き続きやっていると、きちんと計画していくんだということで、今のデータの見せ方も含めて、これからいろいろやらなきゃいけないということで、観光課も当然、オール犬山でやれるところはやっていくんでしょうが、戦略としてきちんと継続、それからきちんと推進できるように頑張っていきたいというふうに思っていますので、またいろんな場面で皆様方にはご協力、またはご支援いただく場面が出てくるかなと思っていますが、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

それでは、次第の最後ですが、その他ということでございます。

事務局のほうから説明のほうお願いします。

(事務局説明)

事務局

年明け、答申してパブコメもやるということでございます。また、その間にいろいろ言いましたが、ある程度、1月21日が最後の親会議、それから30日が答申ということで、本当にタイトでやることが多い年越しになるのかなと思っています。

それでは、以上をもちまして第9回犬山市観光戦略会議専門部会を閉じさせていただきます。本日はありがとうございました。皆さんもよいお年をお迎えください。以上で終わります。ありがとうございました。